

令和6年6月7日

西部農林水産振興センター 邑智農業普及部

標題 「ふるさと教育」で将来の新規自営就農者の確保を！

(ダイジェスト)

邑南町立石見東小学校の児童を対象に5月9日に「稲作体験事前授業」を行いました。イネを植物学的・作物学的視点から見た際の紹介及び田植えのポイントの解説を行いました。児童からは「初めてイネの開花の様子を見た！」や「このお米の看板※を登下校中にいつも見ている！」等好反応な授業となりました。 ※石見高原ハーブ米

邑智郡邑南町の中野・井原地域では以前から邑南町立石見東小学校の児童を対象として「ふるさと教育」が行われており、その一環として、毎年5・6年生を対象に田植えから稲刈りまでを行う「稲作体験」を実施しています。このたび井原公民館からの依頼を受け、田植え体験前の“事前授業”を5・6年生22名を対象に実施しました。

授業では、「イネには一般的な植物にある「花卉」がなく、自らの花粉で受粉することができる。」、「花粉を運ぶ昆虫に目立たせる役割がある花卉がなくても問題ない。」と動画教材を示しながら紹介しました。また、イネは作物として日本では昔から栽培されてきており、江戸時代から現代までの稲作の変遷をその作業に要する時間を中心に紹介しました。

児童にその日の朝食を質問したところ、ご飯食が6割であり、ある児童は「毎朝、海苔を白ご飯に巻いておにぎりにして食べているんだ！」と話してくれました。授業内容について、児童からは「種子という言葉が理科の授業で習ったので知っている。」や「初めてイネの開花の様子を見た。」という感想が聞かれました。

田植え当日は、事前授業で解説した適正な植付深さを自分の指のどこまでかを目安にする点を踏まえ、児童らは楽しそうに活動していました。

農業教育活動は短期間で就農者確保に繋がるわけではありませんが、長いスパンで新規自営就農者確保対策を考えていくことが大切です。今後、同小学校の2年生を対象にした「生き物調査」を行うこととしており、継続した支援活動を行っていきたいと考えます。



事前授業の様子



田植え体験の様子